

OSの保守で必須の作業はメモリのリアルダンプ（メモリの0番地からのフィジカルダンプリスト）を16進で読むことです。段ボール箱一杯のリストをシステムダウンしたアドレスから後方（ダンプリストの下側）に読んでいくのは簡単ですがシステムダウンの原因究明には役立ちません。システムダウンしたアドレスから前方に戻るのには命令長が何バイトであるかを意識していれば、割と楽に行えます。問題はOSのバグが原因でどこから突如別のアドレスに飛び込んでいくつかの命令を実行した後システムダウンとなった場合です。ダンプリストに残るかすかな痕跡を手掛かりにあらゆる想像を逞しくしてしかも頭の中で動的アドレス変換（DAT：Dynamic Address Translation）を行いながらどこから飛び込んできたかを見つけ出します。さらになぜそのような振舞いに至ったかの真の原因であるOSのバグを探し出すのがプロの仕事です。生来私はこのダンプリストを解読するのが苦手でした。プログラミングに際し細心の注意と培ったコーディング技法を駆使してバグフリーなプログラムを作成するのを生命と考えている私は、バグをたくさん出す通常人に比べてダンプリストを見る力が経験値の違いで劣っているのがその原因だと考えていました。ところが最近さるやんごとなき方が「プログラミングは複数の実現手段から最適な選択を行うのでエンジニアリングだが、ダンプリストを読むのは仮説-検証プロセスなのでサイエンスの世界である」とのたまうのを聞き年来の疑問が解消しました。さらにこの御仁の「詰め碁は手筋を駆使したり場合を調べたりするのでエンジニアリングだが布石は発想の問題なのでサイエンスである」との言に、

エンジニアとしての私はますます感心した次第です。

9月4日の慶應義塾大学のFIT（当会主催）における日本棋院青葉かおり四段（理知の女神ミネルヴァのような方でした <http://www.nihonkiin.or.jp/player/htm/ki000343.htm>）とモンテカルロ囲碁 Crazy Stone との8子局の対戦では「サイエンティスト Crazy Stone」の布石に驚きました。一見空いている空間に無造作に置いただけに見えるのですが王銘琬九段は「見慣れない手ですが悪い手ではありません」との解説です。これが布石なら私の覚えた布石は一体何なのだとの疑問には「囲碁は布石段階では盤面が広すぎるため一手一手の善悪を決定づけられません」との有識者の答えです。不可思議な序盤に比べて Crazy Stone の中終盤は大変強く大方の期待を裏切って青葉四段は投了してしまいました。王銘琬九段も「筋力はプロ並です」と評価します。コンピュータ囲碁「彩」の作者山下氏によれば、「CPUが2倍速くなればレーティングは60点ほど上がるので、4倍速くなれば120点、つまり1級（100点）ほど強くなります。単純計算では4倍速くなれば置石が1つ減ります。あと8子置石を減らすには4⁸倍=65,536倍速いコンピュータを使えばひょっとしたら到達できるかもしれません。モンテカルロ囲碁は将棋と比べてマシンの並列効果が高いので、この程度の高速化なら近いうちに実現できるのでは、と思っています」とのことです。一手一手の善悪をほぼ指摘できるという将棋よりも早くXデー（本因坊を倒す日）を見られそうです。

（湖東俊彦／事務局長）





【特集：新しい時代を切り拓くモバイル通信と高度交通システム】

■特集「新しい時代を切り拓くモバイル通信と高度交通システム」の編集にあたって 竹下 敦

■A New QoS Routing Scheme Based on Bandwidth Consumption for MANETs 長田俊明 他

■無線センサネットワークにおける複数プログラムの動的配備 末永俊一郎 他

■VANETにおけるGeocastによる要求を想定した位置依存情報の複製配布方法 山中麻理子 他

■車両への情報配信サービスに適したプッシュ型プロトコルの設計と実装 伊川雅彦 他

■無線LANによる位置推定のためのオンライン生成可能な電波環境地図とその特性 加治 充 他

■汎用GPSと車載レーザレダを用いた高精度車両位置推定 小島祥子 他

■目的予測型カーナビゲーションシステムのためのマップマッチング手法 宮下浩一 他

■光ビーコンを使った高精度測位技術 森信一郎 他

■マルチホーム環境における帯域集約のためのリンク層情報を利用したコネクション制御手法 小口 潔 他

■移動IP網におけるネットワーク制御型経路最適化手法 杉本信太 他

■複数経路環境における非対称なTCP通信での不要な再送抑制手法 荻野秀岳 他

■IPv4移動体通信システムにおけるパケットロスレスハンドオーバーの提案 金本綾子 他

■プロープ情報システムのためのプライバシーを考慮した匿名認証方式の提案と評価 佐藤雅明 他

■タスク指向型モバイルサービスナビシステムの拡張とユーザ評価 深澤佑介 他

■生体情報を利用したAdaBoostによるドライバー認知負荷状態の検知 宮治正廣 他

■ミラー効果に基づく相互チュートリアルによる複数インタフェースでの操作方法学習支援 桂川景子 他

■釈迦：携帯電話を用いたユーザ移動状態推定方式 小林亜令 他

■XEUS：携帯電話向けXML文書符号化方式 小林亜令 他

■Vehicle Detection using Probability Fusion Maps Generated by Multi-camera systems 胡 振程 他

【特集：日常生活におけるコラボレーション支援技術】

■特集「日常生活におけるコラボレーション支援技術」の編集にあたって 井上智雄

■二つの遠隔会議への同時参加支援手法 高田 格 他

■実対人距離を調節可能な複合現実分散会議システム

井上智雄

■言外の情報としての編集過程情報を伝えるメールシステムの提案と評価 角野清久 他

■互恵性を用いたグループ意思決定支援機能の提案 小柴 等 他

■簡易書式の認識に基づくホワイトボードログの整理・共有システム 井上亮文 他

■全方位カメラによる会議撮影システムが意思決定の非同期的伝達に及ぼす影響の評価 坂本竜基 他

■高齢者介護施設におけるコミュニケーションチャンネル確立過程の分析と支援システムの提案 秋谷直矩 他

■アプリケーションスイッチに着目した情報提示タイミング制御のための作業履歴の分析 田中貴紘 他

■UMLダイアグラムとチャットを関連付けた分散共同モデリング支援システム 徐 冬梅 他

■回転偏光フィルタにより情報の可視性を制御するテーブルトップ型ディスプレイ 櫻井智史 他

■One-path Relaxed Realtime Constraint Mobile User Classification Method in Mobile Clickstreams 山上俊彦

■地理的コンテンツの収集に適合したコラボレーション支援機能の分析と評価 玉田大輔 他

■講義中の反応に基づく説明方法と教材の改善 奥井善也 他

■ケータイトラベラー：過去世界の訪問を実現する携帯電話による歴史学習システム 山田敬太郎 他

■TalkCast：モバイル学習用動画コンテンツの作成および視聴システム 梶山拓哉 他

【一般論文】

■軽量仮想計算機モニタを利用したOSデバッガのロギング&リプレイ機能の提案 竹内 理 他

■手書きインタラクションにおける遅延マネジメント—表示遅延時間の受容性— 田丸恵理子 他

■Ajaxを用いたSSHクライアントシステムの提案と実装 小須田優介 他

■P2Pネットワークにおけるtop-k検索のための軽量インデックス† 成毛源樹

■複雑ネットワークモデルにおけるテーマパーク問題に関する考察～ネットワークモデルの比較法～* 柳田 靖 他

*：推薦論文 Recommended Paper

†：テクニカルノート Technical Note



会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、10月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「オープンリサーチ型次世代ネットワーク技術への挑戦 — National Project JGN2 4年間の Fact Sheets —」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■かつて、Internet2を知って米国の研究機関の機動力に感心したことがある。日本の研究用ネットワークの存在も聞いていたが、長期計画も含めた総合的な研究内容等は今回の特集で初めて知った。ここで触れていた数多くの知見や技術の蓄積は、将来への期待を高めてくれるものであった。(匿名希望)

■オープンリサーチ型次世代ネットワーク技術の特集を、興味深い内容であると思って読み始めたが、内容が専門的すぎて理解しづらかった。論文誌ではなくさまざまな分野の会員が読む会誌なのだから、もう少し分かりやすい内容にしていただけるとありがたかった。(匿名希望)

■「新世代ネットワークの実現に向けて」：現在のインターネットを基本とした成長路線ではイノベーションの限界があり、発展のための新たなネットワークの設計開発が重要な点に同意。本記事で提示された要求を実現するための技術を集めてほしい。(匿名希望)

■「新世代ネットワークの実現に向けて」：JAIN コンソーシアムのときに著者にお会いしたことがある。AKARI プロジェクトのメンバは彼の遺志を引き継いでプロジェクトを成功させてくれると思う。故人のご冥福をお祈りしたい。(匿名希望)

■次世代ネットワーク技術と新世代ネットワークについて、興味深く読みました。民間企業の参加度合いがいまいちよく分かりませんでした。新世代ネットワーク・プロジェクト AKARI については今後も注目したいと思います。(匿名希望)

■前から何度か見聞きしていた AKARI プロジェクトについての特集は、大変興味深いものでした。AKARI プロジェクト全体のロードマップを見ると、計画の規模を実感しました。今回の JGN2 プロジェクトの特集を通して、その成果の概観を知ることができたのは有意義でした。(匿名希望)

その他の記事につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■書評「学力低下は錯覚である」について：よい本を紹介いただきました。(匿名希望)

■道しるべ「計算の視点から音楽の構造を眺めてみると」について：おもしろく連載を読んでおります。(匿名希望)

■コラム「わが支部の魅力はここにあり」について：今回のコラムは各支部の自己紹介にとどまり、目的を達していないと思います。各支部ごとの取り組みについて特集していただけるなら、どの支部が一番活発で優秀なのか、第三者の視点からの評価と、その特徴は他の支部と比較して、なぜ得られているのかななどを記載していただけると助かります。(匿名希望)

■解説「高精度時刻サーバの開発 —10 ギガビットネットワーク時代の計測技術—」について：ネットワークを利用した地震速報サービスを開発していることから、NICT の時刻サーバ (NTP サーバ) は不可欠なサービスと感じています。開発利用者からみ

て、将来的にどの程度運用保障されるものかが、気がかりです。あと、写真で紹介のありましたネットワーク時空サーバについて詳しい情報に到達できなかったのが残念です……。 (匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■ ITU-T 総会の速報をお願いしたい。 (匿名希望)

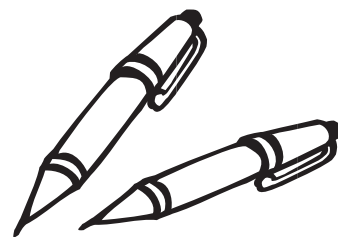
■ 最近注目されている新技術について、学会の立場から必要と思われるものを、「道しるべ」にて、解説として取り上げていただけますでしょうか。 (匿名希望)

■ 「情報処理」という括りは非常に範囲が広がっています。それ自体はうれしいことですが逆に分か

りにくくなっています。現状で扱っている領域を整理・体系化してキーワードをつけ、毎号の特集や論文はそのキーワードとともに掲示してはどうでしょうか。もちろん体系は固定化せず、随時見直せば良いと思います。 (匿名希望)

■ 興味のある記事がまるでなかったことに加え、多忙も重なり、ほとんど流し読みさえもできませんでした。 (匿名希望)

【本欄担当 尾崎亮太, 松尾健史／書評・ニュース分野】



これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」<URL:<http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> に掲載していますので、そちらも参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>>

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門
E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax:(03)3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!!



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2009 年				
	平成20年度長尾真記念特別賞候補者推薦募集 http://www.ipsj.or.jp/03somu/nagao/H20/h20boshu.html	1月16日（金）		
	論文誌「組込みシステム工学」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-K.html	2月2日（月）		
	東海支部学生研究発表会助成 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	2月28日（土）		
	東海支部「平成20年度学生論文奨励賞」募集 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	3月10日（火）		
	論文誌「エンタテインメントコンピューティング」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-T.html	3月18日（水）		
	論文誌「環境貢献・社会貢献に向き合うネットワークサービス技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-J.html	4月13日（月）		
	論文誌「インタラクションの基盤技術、デザインおよび応用」特集への論文投稿 論文誌「インタラクションの基盤技術、デザインおよび応用（テクニカルノート）」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-L-10-M.html	4月20日（月）		
	論文誌「サイバーコミュニケーション環境を実現するネットワークサービス」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-P.html	5月11日（月）		
	論文誌「マルチメディア、分散、協調とモバイルシステム」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-N.html	5月18日（月）		
	論文誌「身近になる情報システム－理論と実践－」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-Q.html	5月18日（月）		
	論文誌「多様なネットワークサービスの統合・連携に向けたインターネットと運用管理技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-R.html	5月28日（木）		
1月13日（火）～ 1月15日（木）	第50回 プログラミング・シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/prosym/			箱根ホテル小涌園
1月16日（金）	高度交通システム2009シンポジウム http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/S-ITS2009.html		1月8日（木）	日本科学未来館 （臨海副都心）
1月16日（金）	東海支部主催講演会「Webアプリケーションのセキュリティ」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/		参加無料 会員以外の方も参加可	中部大学（愛知県）
1月19日（月）～ 1月22日（木）	Asia and South Pacific Design Automation Conference （ASP-DAC2009） http://www.aspdac.com/aspdac2009/			パシフィコ横浜
1月22日（木）～ 1月23日（金）	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学 シンポジウム（HPCS2009） http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/S-HPCS2009.html	9月26日（金）	早期割引 1月15日（木）まで	東京大学武田ホール
1月22日（木）～ 1月23日（金）	第70回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/GN70.html	11月25日（火）	当日のみ	屋久島環境文化村センター
1月22日（木）～ 1月23日（金）	第93回情報学基礎・第189回自然言語処理合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/FI93NL189.html	11月28日（金）	当日のみ	お茶の水女子大学
1月23日（金）	第81回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CH81.html	11月28日（金）	当日のみ	キャンパスプラザ京都
1月23日（金）～ 1月24日（土）	ウィンターワークショップ2009・イン・宮崎 http://www.sys.wakayama-u.ac.jp/ww2009/	12月15日（月）		宮崎市民プラザ他
1月26日（月）～ 1月27日（火）	第72回 プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/PRO72.html	11月19日（水）	当日のみ	愛知工業大学 本山キャンパス
1月26日（月）～ 1月27日（火）	第131回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/HCI131.html	11月22日（土）	当日のみ	湯布院公民館
1月27日（火）	ソフトウェアジャパン2009 「ITのパラダイムシフト～クラウドで何が変わるか？～」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2009/		定員になり次第	大手町サンケイプラザ
1月28日（水）～ 1月29日（木）	第110回 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/OS110.html	12月5日（金）	当日のみ	蒲郡情報ネットワークセンター
1月29日（木）～ 1月30日（金）	第138回 システム LSI 設計技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/SLDM138.html		当日のみ	慶應義塾大学 日吉キャンパス

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
1月29日(木)～ 1月30日(金)	第48回モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/MBL48.html	11月28日(金)	当日のみ	はこだて未来大学 (函館市)
1月30日(金)	第122回 アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/AL122.html	12月1日(月)	当日のみ	NTT コミュニケーション科学基礎研究所
2月13日(金)	第43回電子化知的財産・社会基盤研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/EIP43.html	12月5日(金)	当日のみ	敬和学園大学
2月16日(月)～ 2月17日(火)	第134回グラフィクスとCAD研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CG134.html	12月18日(木)	当日のみ	NHK放送技術研究所
2月26日(木)～ 2月28日(土)	第174回計算機アーキテクチャ・第119回ハイパフォーマン スコンピューティング合同研究発表会 (HOKKE-2009) http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/ARC174HPC119.html	12月12日(金)	当日のみ	北海道大学 学術交流会館
2月27日(金)～ 2月28日(土)	第98回コンピュータと教育研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CE98.html	12月26日(金)	当日のみ	電気通信大学
3月4日(水)	第21回ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/UBI21.html	1月9日(金)	当日のみ	慶應義塾大学三田キャンパス / 神戸大学
3月5日(木)	第123回 アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/AL123.html	1月6日(火)	当日のみ	小樽商科大学 札幌サテライト
3月5日(木)～ 3月6日(金)	インタラクション 2009 http://www.interaction-ipsj.org/index.html	10月17日(金)	早期割引有り	学術総合センター / 一橋記念講堂
3月5日(木)～ 3月6日(金)	第138回マルチメディア通信と分散処理・第44回コンピュータ セキュリティ合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/DPS138CSEC44.html	1月7日(水)	当日のみ	東海大学 熊本キャンパス
3月5日(木)～ 3月6日(金)	第73回 数理モデル化と問題解決 研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/MPS73.html	1月8日(木)	当日のみ	沖縄科学技術研究 基盤機構 OIST Seaside House
3月7日(土)～ 3月8日(日)	第12回エンタテインメントコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/EC12.html	1月7日(水)	当日のみ	京都工芸繊維大学
3月9日(月)	第21回ゲーム情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/GI21.html	1月9日(金)	当日のみ	大阪商業大学
3月9日(月)～ 3月10日(火)	ネットワーク生態学研究グループ 第5回シンポジウム http://www.jaist.ac.jp/%7Eyhayashi/NetEcoG_top.html	12月31日(水)	定員になり次第	沖縄国際大学
3月10日(火)～ 3月12日(木)	第71回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/71kai/index.html			立命館大学びわこ・ くさつキャンパス
3月13日(金)～ 3月14日(土)	第166回 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/CVIM166.html	12月31日(水)	当日のみ	東北工業大学 八木山キャンパス
3月16日(月)	第28回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/EVA28.html	1月19日(月)	当日のみ	九州大学 伊都キャンパス
3月18日(水)	第71回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/GN71.html	1月23日(金)	当日のみ	神奈川工科大学
3月18日(水)～ 3月19日(木)	第107回 情報システムと社会環境研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/IS107.html	1月9日(金)	当日のみ	専修大学 神田キャンパス
3月18日(水)～ 3月19日(木)	第163回 ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2008/SE163.html	1月27日(火)	当日のみ	化学会館会議室 (御茶ノ水)
3月23日(月)～ 3月25日(水)	The 9th International Symposium on Autonomous Decentralized Systems http://www.ece.upatras.gr/isads2009/			Athens, Greece
9月2日(水)～ 9月4日(金)	FIT2009 第8回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2009/			東北工業大学 八木山キャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 12月8日 平成21年度会誌モニタ募集 (締切: 2月27日)
- 12月8日 「多様なネットワークサービスの統合・連携に向けたインターネットと運用管理技術」特集の論文募集,
「身近になる情報システム－理論と実践－」特集の論文募集
- 12月1日 「インタラクションの基盤技術, デザインおよび応用」特集の論文募集,
「インタラクションの基盤技術, デザインおよび応用 (テクニカルノート)」特集の論文募集
- 11月25日 情報処理学会 第52回臨時総会の開催について

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へE-mail、Faxまたは郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 21,000円（税込）
賛助会員（企業） 31,500円（ 〃 ）
賛助会員以外の企業 52,500円（ 〃 ）
*本誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,000円で同一内容を本誌Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■国立天文台 ALMA 推進室

募集人員 特定契約職員（専門研究職員） 5～6名
専門分野 国立天文台で推進している日米欧国際共同プロジェクトALMAのComputing開発業務、特にデータ解析ソフトウェアあるいはACA相関器制御ソフトウェアの開発・改良
•単一鏡および干渉計型電波望遠鏡のデータ解析ソフトウェアの作成・改良
•ACA相関器制御ソフトウェアの作成・改良
•CORBAを経由しての他のALMAソフトウェアと共同で動作するシステムの開発
•米欧ALMAが作成した文書の調査、ソースコードの解説
なお、仕事を進めるにあたり米欧の開発者との英語によるコミュニケーションが必要
応募資格 少なくとも1つの高級言語（C, C++, Java, Pythonなど）に堪能なこと。XML, CORBAなどの知識があれば、より好ましい。英語に堪能なこと（TOEIC800点以上または英検準1級以上相当）
着任時期 平成21年4月1日
提出書類 履歴書、計算機に関するこれまでの経験を含め抱負をまとめた文章（A4用紙2枚程度）、できるだけ迅速に連絡がとれる連絡先（複数可）
応募締切 平成21年1月28日（17時必着）
送付先 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台 ALMA推進室長 立松健一
照会先 ALMA推進室 小杉城治 E-mail:george.kosugi@nao.ac.jp
その他 詳細はWebページ（<http://www.nao.ac.jp/>）の「採用情報・研究公募」を参照ください

■筑波大学計算科学研究センター

募集人員 准教授または助教 1名（並列システムソフトウェア分野）
助教 1名（グリッド分野）
専門分野 並列システムソフトウェア分野、グリッド分野
職務 文部科学省「次世代IT基盤構築のための研究開発」のうち「e-サイエンス実現のためのシステム統合・連携ソフトウェアの研究開発」領域における研究開発課題「シームレス高生産・高性能プログラミング環境」あるいは「研究コミュニティ形成のための資源連携技術に関する研究」の研究に従事する
応募資格 博士の学位を有し（助教の場合は着任時期までに取得見込みも可）、専門分野において研究業績があること
着任時期 平成21年4月1日以降、なるべく早い時期
応募書類 履歴書（連絡先とE-mailアドレスを明記）、研究業績リスト（学術論文、国際会議論文、著書、特許等のリスト、所属学会の活動歴、社会貢献実績、教育実績、受賞歴、なお、共著者はすべて記入のこと）、主要論文別刷（5編以内、最近5年間のものに限り、コピー可）、これまでの研究経過と着任後の研究計画、研究に対する抱負（2000字以内）、参考意見を伺える方（2名）の氏名・所属・連絡先
応募締切 平成21年1月30日（必着）
送付先 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学計算科学研究センター長 佐藤三久 「並列システムソフトウェア分野応募書類」あるいは「グリッド分野応募書類」と朱書き書留か宅配便 *応募書類は返却しませんのでご了承ください
照会先 計算科学研究センター 建部修見 E-mail:tatebe@cs.tsukuba.ac.jp Tel(029)853-6484（なるべくE-mailでお願いします）
その他 詳細はWebページ（<http://www.ccs.tsukuba.ac.jp/>）の公募情報を参照
【任期】任期更新は1年後ごと、更新期限は平成24年3月31日まで
【給与】給与は筑波大学契約職員（有期雇用）制度に基づき、協議により決定

■東京農工大学総合情報メディアセンター

募集人員	教授 1名
専門分野	情報基盤技術（ネットワーク、サーバシステム、LMS/CMSソフトウェア等）、情報セキュリティ技術、データベース技術等
業務内容	東京農工大学総合情報メディアセンターが推進する学内ネットワークに対する情報セキュリティ、各種データベース化、およびIT化教育に関連する研究・開発等の業務
応募資格	博士の学位を有する方または同等の能力があると認められる方で、情報基盤技術に必要な知識と経験を有し、当該業務・研究開発を、熱意をもって進められる方
着任時期	平成21年4月1日以降のなるべく早い時期
提出書類	履歴書、業務実績・研究業績・取得特許・受賞歴・資格などのリスト、これまでの業務・研究などの内容と今後の研究概要（A4用紙2000字以内）、本職応募に際しての抱負
応募締切	平成21年2月13日（当日消印有効）
送付先	〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1 東京農工大学学術情報チーム副チームリーダー 「総合情報メディアセンター専任教員応募書類」と朱書きし必ず書留 *応募書類は返却いたしません
照会先	総合情報メディアセンター専任教員選考委員会委員長 島田 清（教授） E-mail:shimadak@cc.tuat.ac.jp Tel(042)367-5760 Fax(042)367-5760
その他	【任期】任期5年、再任2回まで可 Web ページ (http://www.tuat.ac.jp/general/koubo/pdf/koubo081202.pdf)

■北海道大学大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻数理計算科学講座

募集人員	教授 1名
専門分野	統計科学、数理科学に関する分野
応募資格	博士の学位を有すること、統計学において優れた研究および教育業績のある方
着任時期	平成21年6月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類	履歴書、業績リスト、研究歴と業績概要（主要論文別刷（5編））、教育・研究の抱負、大学の将来所見、意見を伺える方（2名） *詳細はWebページにて確認のこと
応募締切	平成21年3月25日（必着）
照会先	コンピュータサイエンス専攻 教授 工藤峰一 E-mail:mine@main.ist.hokudai.ac.jp Tel(011)706-6852
その他	公募詳細についてはWeb ページ (http://www.ist.hokudai.ac.jp/information/recruit.php) を参照のこと

Multicore Programming Contest Cell Challenge 2009

概要

マルチコアプロセッサが広く市場に出回る一方、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント (SCE) の PLAYSTATION®3 (PS3®) にはヘテロジニアスなマルチコアプロセッサである Cell Broadband Engine™ (Cell/B.E.) が搭載されるなど、マルチコア環境はめずらしいものではなくなってきました。



一方でこのようなマルチコア環境を効率的に利用するための並列化プログラミングでは、スケーラビリティや並行タスクの発見、生成、スレッド化をいかに行うかが課題となります。

情報処理学会 計算機アーキテクチャ研究会、組込みシステム研究会、ハイパフォーマンスコンピューティング研究会では一昨年、昨年と「Cell スピードチャレンジ」を開催し、多くの方にご参加とご好評をいただきました。これを受けまして次回も先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS2009 の併設企画として、財団法人北九州産業学術推進機構 (FAIS) の Cell Open Cafe をお借りし、Cell/B.E. を対象とするマルチコアプログラミングコンテストを開催させていただき運びとなりました。

参加条件

参加はチーム単位で、規定課題部門・自由課題部門のいずれか、もしくは両方に登録できます。チームの構成人員は、1人以上であれば制限はなく、1チームに1つの Cell Open Cafe アカウントを発行します。参加には、以下の条件を満たしていただく必要があります。

規定課題・自由課題 共通

- ・チーム全員が FAIS の提供する Cell Open Cafe 利用規約に同意いただけること。
- ・2~4 ページのドキュメントを公開資料としてご提供いただけること。
- ・協賛各社でインターンシップ中の学生や従業員でないこと。
- ・成績優秀者となった場合 SACSIS2009 に参加し、登壇発表、ポスターセッションなどで発表を頂き、その際の発表スライドを公開資料としてご提供いただけること。

規定課題のみの追加条件

- ・チームの全メンバーが、高校、高専、大学、大学院またはこれに準ずる学校の学生であること。
- ・同一参加者が規定課題部門の複数チームに所属しないこと。
- ・公開資料として、GPL2 に基づきソースコードを提供いただけること。

なお、条件は予告なく変更になることがあります。参加方法等の最新の詳細につきましては、コンテストウェブページ

<http://www.hpcc.jp/sacsis/2009/cell/>

をご覧ください。たくさんのご参加をお待ちしています。

重要日程

2009/01/05	規定課題詳細、ツールキット公開
2009/01/21	参加受付メ切、予選ラウンド開始
2009/02/27	規定課題 予選ラウンド終了、自由課題終了
2009/03/06	規定課題 決勝ラウンド開始
2009/03/20	規定課題 決勝ラウンド終了
2009/05/28 ~ 29	SACSIS2009 にて表彰

主催 情報処理学会
計算機アーキテクチャ研究会
組込みシステム研究会
ハイパフォーマンスコンピューティング研究会

協賛 財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS)
株式会社東芝 セミコンダクター社
ソニー 株式会社
株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント (SCE)
日本アイ・ビー・エム 株式会社

表彰

規定課題・自由課題のそれぞれ上位 3 チーム程度を成績優秀者とし、SACSIS2009 において表彰を行います。

前回は上位入賞者に対し、株式会社東芝 セミコンダクター社からは HDD 内蔵 HV 液晶テレビ、SpursEngine 搭載 AV ノート PC、HDD DVD レコーダ、SCE からは PS3®, FAIS からは旅行券を賞品としてご提供いただきました。今回も豪華賞品をご提供いただける予定です。

規定課題概要

Cell チャレンジ 2009 の規定課題は「文字列の編集距離計算」です。2つの文字列の近さを測るために片方に次の操作を繰り返し適用して、もう一方の文字列を得るための操作回数の最小値がその2つの文字列の編集距離です。その操作は以下の3種類です。

- ・削除：1つの文字を取り除く
- ・挿入：1つの文字を新たに付け加える
- ・置換：1つの文字を別の文字で置き換える

例えば「weight」と「write」の編集距離を考えると、次のように操作を繰り返し適用すると、この2つの編集距離が4以下であることが分かります。

weight
weighte (挿入：e)
wrighte (置換：e → r)
wrihte (削除：g)
write (削除：h)



また、3回以下の操作の適用では weight を write にすることが実はできないので、weight と write の編集距離は4になります。削除、挿入、置換は文字列の中のどの位置で行なってもよいです。

委員会

アドバイザリ委員会

- ・中村 宏 (東大)
- ・中島 浩 (京大)
- ・平山 雅之 (東芝/IPA・SEC)
- ・朴 泰祐 (筑波大)

実行委員会

- ・津邑 公暁 (名工大)
- ・中田 尚 (奈良先端大)
- ・有松 修一 (FAIS)
- ・井上 弘士 (九大)
- ・井上 忠宣 (日本 IBM)
- ・大津 金光 (宇都宮大)
- ・岡本 吉央 (東工大)
- ・片桐 孝洋 (東大)
- ・吉瀬 謙二 (東工大)
- ・木村 啓二 (早大)
- ・光来 健一 (九工大)
- ・近藤 伸宏 (東芝)
- ・菅原 豊 (東大)
- ・鈴木 謙二 (東芝)
- ・高橋 大介 (筑波大)
- ・瀧塚 博志 (SCE)
- ・富山 宏之 (名大)
- ・中田 秀基 (産総研)
- ・平澤 将一 (電通大)
- ・山崎 剛 (SCE)
- ・吉見 真聡 (慶大)

* "PLAYSTATION", "PS3" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
"Cell Broadband Engine" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。



FIT2009 第8回情報科学技術フォーラム

査読付き論文・一般論文 発表募集案内

FIT2009Web ページ <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2009/>

査読付き論文受付期間（予定）：2009 年 3 月 9 日（月）～4月23 日（木）

一般論文 受付期間（予定）：2009 年 5 月 1 日（金）～5月29 日（金）

会 期：2009年9月2日（水）～ 4 日（金）

会 場：東北工業大学 八木山キャンパス（宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1）

○論文ページ数：2～8ページ程度 ○講演時間：20分

※3ページ目以降はエキストラページ料金（3,000円／ページ）が必要です

情報処理学会（IPSJ）と電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ（ISS）並びにヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）とは、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム（FIT：Forum on Information Technology）」を開催しており、2009年9月には第8回目を東北工業大学八木山キャンパスで開催します。

本フォーラムは、両学会の大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

【NEWトピックス】査読付き論文「論文誌」への推薦希望受付

今までの FIT では「査読付き論文」の最大ページ数は 4 ページでしたが、今回の FIT2009 から最大ページ数を論文誌（フルペーパー）と同等の 8 ページ程度まで広げて、「FIT 査読付き論文」の申込とあわせて「論文誌への推薦希望」も受け付け致します。ご希望の方は、Web からお申込みの際に「論文誌への推薦希望」欄にチェックを入れて下さい。FIT 査読会議において優秀な論文は FIT からの推薦論文として、情報処理学会または電子情報通信学会の論文誌へ推薦を致します。

※但し論文誌の採否に関しては、それぞれの学会の論文誌編集委員会が決定致します。

●申込み主要日程（予定）

※査読付き論文と一般論文では、登録申込/投稿受付開始時期が異なりますのでご注意ください。

■査読付き論文

登録申込/投稿受付開始：平成 21 年 3 月 9 日（火）

登録申込〆切り/査読用原稿の投稿〆切り：

平成 21 年 4 月 23 日（木）

査読の採否結果通知：平成 21 年 6 月 24 日（水）

カメラレディ投稿〆切り：平成 21 年 7 月 3 日（金）

■一般論文

登録申込/投稿受付開始：平成 21 年 5 月 1 日（金）

登録申込〆切り：平成 21 年 5 月 29 日（金）

カメラレディ投稿〆切り：平成 21 年 7 月 3 日（金）

※登録申込と原稿投稿は、上記のFIT2009Webページよりお願い致します。

※登録申込、原稿投稿要領の詳細は、決定次第 FIT2009Web ページでお知らせ致します。

●査読付き論文

査読付き論文は、FIT 設立に伴い新たに導入された企画です。

査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大 8 ページ程度に制限緩和された論文ページ数を活用して下さい。また、採録された論文の中から、査読会議において各分野の応募総数の 5%を上限として優秀な論文を推薦、その中から船井ベストペーパー賞 3 件、FIT 論文賞 7 件程度を選定し、表彰式（FIT2009 会期中）にて表彰いたします。船井ベストペーパー賞受賞論文には船井情報科学振興財団より賞金 20 万円、FIT 論文賞受賞論文には FIT 推進委員会より賞金 5 万円を贈呈します。皆様、是非ともチャレンジして下さい。

なお、査読の結果、不採録となった場合には、一般論文として扱います。

※一部の研究分野では査読付き論文の募集を致しません。査読付き論文の募集を行う研究分野については、Web ページをご覧ください。

●一般論文

当該 FIT での発表件数の 1.5%を上限として、平成 21 年 12 月 31 日現在で 33 歳未満の講演者（査読付き論文および一般論文）を対象に優れた発表を選定し、ヤングリサーチャー賞（賞金 3 万円）として FIT2010 の表彰式で贈呈します。

●問合せ先

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F

社団法人 情報処理学会 事業部門 TEL. 03-3518-8373 FAX. 03-3518-8375 e-mail: jigyo@ipsj.or.jp

平成 21 年度会誌モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をよりよくするために編集委員一同努力を続けておりますが、会誌についての会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 会誌毎号の本誌巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) から、毎月アンケートに回答する。

- 記事に対する評価
- 記事に対する感想・意見
- 記事テーマの提案
- そのほか全般的な意見・提案など

注) 会誌の記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として 1 年間とします。

対 象 号 会誌 50 巻 4 号～ 51 巻 3 号

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 平成 21 年 2 月 27 日 (金) 必着 * 申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込／照会先 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

平成 21 年度会誌モニタ申込書

宛先：情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax: (03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (e) 学生 (f) その他

職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教官 (大学・大学院) (h) 教職員 (i) 学生 (j) その他

ご意見をお寄せください！

【2月10日頃までにお出してください】

宛 先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれから送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq5001.html> Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp

(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

※ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
<http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種：(a) 企業（サービス業）(b) 企業（製造業）(c) 研究機関 (d) 教育機関（大学・高専など）
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官／教員（大学・大学院）(h) 教職員（小・中・高校・高専など）
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢：(a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別：(a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか？：(a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」（会誌および Web）に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可（氏名のみ掲載）(b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9-
10. 今月号（2009年1月号）の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a …大変参考になった b …よい c …普通、どちらとも言えない d …悪い e …読んでいない]
- 特集：視覚情報の処理と利用
1. 総論：視覚情報の処理と利用 10-1-
2. 眼における情報処理 10-2-
3. 昆虫による色情報の生成と利用 10-3-
4. 脳の視覚情報処理 10-4-
5. 錯視とその情報処理モデル 10-5-
国際情報オリンピックエジプト大会参加報告 10-6-
Web 2.0 アプリケーションにおける代表的な攻撃手法とその対策 10-7-
センサネットワークの新たな展開を目指して 10-8-
多様な無線メディアを用いたユビキタス ITS の実現に向けて 10-9-
プロ棋士対コンピュータ：FIT2008 における囲碁対局報告 10-10-
わが支部の魅力はここにあり：北陸支部：表彰活動による学生の元気付け 10-11-
11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。
12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマなどありましたらお書きください。

大手 SI 会社で働いていた頃、SE のための Q&A システムを構築し、その分析と改善に携わった。質問を寄せる SE の中には、自分の関心のあることばかりを書き並べた、自己中心的な質問のために、適切な回答を得られない者が大勢いた。本来 SE はロジカルで客観的な思考が求められる職種であるはずなのに、こうした人間の自己中心的傾向を、コンピュータにより回避できないかと考えてきた。

人は「まとも (ゲシュタルト)」を見たがり、ゲシュタルトは他の見方を阻む。これが人の視野を狭めるのだろう。ではなぜ人はゲシュタルトを見るのか？ こうして「錯視」と「眼」に行き着いた。錯視や眼について学ぼうちに、その魅力にはまった。この面白さを多くの人に伝えたいと考え、本特集を企画

した。

しかし、情報処理学会には馴染みの薄いテーマであり、執筆に協力いただける方が見当たらなかった。そこで北海道大学先端生命科学研究院の加茂直樹先生を思い出した。加茂先生は微生物の光感受性タンパク質の権威だ。そして大阪大学徳永史生先生を紹介いただき、徳永先生の呼びかけに木下修一先生と小松秀彦先生が応えてくださった。

こうした数々の人とのつながりから本特集は生まれた。このような幸運に感謝する。そして、本特集を読まれた方々にも、新しい、豊かな、人とのつながりが生まれることを祈っている。

(池田文人・田中秀樹／本特集エディタ)

ITの最新情報，研究発表の場の提供を通じて，あなたのお役に立ちます

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

会員募集中!!

今一番新しい研究分野は何か？

IT時代をリードしたい!!

そうだ，情報処理学会に入ろう!



申込／照会先 社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp

次号 (2月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」アクセラレータ，再び (仮)

アクセラレータ技術の影と光 ―ベタ〜エクサの次世代 HPC の中心的な躍進技術へ／フル GPU による CFD アプリケーション／東京工業大学 TSUBAME における ClearSpeed 活用事例／Cell/B.E. アーキテクチャの特徴と活用事例／アクセラレータによるシミュレーションの加速

報 告

Xen Summit Tokyo (Asia) レポート 松本一志

委員会から

IFIP 近況報告 齊藤忠夫 他

コラム わが支部の魅力はここにあり

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません(社外頒布用の複写は許諾が必要です)。

権利委託先：(中法)学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail: info@jaacc.jp

Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

掲載広告カタログ・資料請求用紙

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	346,500 円 (税抜 330,000 円)	—	—
表 3	288,750 円 (税抜 275,000 円)	—	—
表 4	404,250 円 (税抜 385,000 円)	—	—
表 2 対向	315,000 円 (税抜 300,000 円)	—	—
表 3 対向	278,250 円 (税抜 265,000 円)	199,500 円 (税抜 190,000 円)	162,750 円 (税抜 155,000 円)
前付 1 頁	262,500 円 (税抜 250,000 円)	173,250 円 (税抜 165,000 円)	141,750 円 (税抜 135,000 円)
前付 1/2 頁	—	—	84,000 円 (税抜 80,000 円)
前付最終	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
目次前	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
差込 (A 判 70.5kg 未満 1 枚)	288,750 円 (税抜 275,000 円)		
差込 (A 判 70.5kg ～ 86.5kg 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		
同封 (A 判 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		

■「情報処理」

発 行 社団法人 情報処理学会
発行部数 25,000 部
体 裁 A4 判
発 行 日 毎当月 15 日
申込締切 前月 10 日
原稿締切 前月 20 日
広告原稿 オフセット用ポジフィルム
原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm
1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm
雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
アドコム・メディア（株）(Tel/Fax/E-mail は下に記載)

*左記料金はポジフィルム納入による料金です。
*版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。
*断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。
*同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア（株）宛にご請求ください。

■「情報処理」 50 巻 1 号 掲載広告（五十音順）

- | | | | |
|------------------------------------|-----|--|--------|
| ☐ IDG ジャパン | 表 3 | ☐ オーム社 | 表 2 対向 |
| ☐ アドコム・メディア | 目次前 | ☐ 京都大学 ICT イノベーション事務局 | 同封 |
| ☐ インタフェース | 表 2 | ☐ 日立製作所 | 表 4 |

☐ すべての会社を希望

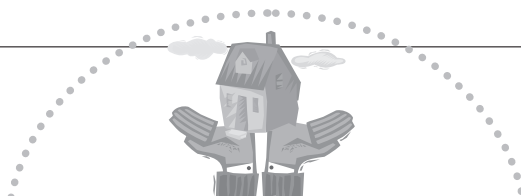
■資料送付先

フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL ()	-	FAX ()	-
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は
広告総代理店 **アドコム・メディア（株）**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp>) 「会員サービス」のページからも各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 (社) 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ～ 50 口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

MITSUBISHI
Changes for the Better

三菱電機 (株)

●●● 賛助会員 (10 ～ 19 口)



株式会社 NTT データ
(株) NTT データ

Google

グーグル (株)

docomo

(株) NTT ドコモ

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ～ 9 口)



NTT コムウェア
(株) NTT コムウェア

OKI

沖電気工業 (株)



(株) インプレス IT



(株) うえじま企画

SONY

ソニー (株)

コトバウチュウ

(株) ニューズウォッチ

Panasonic

ideas for life
パナソニック (株)

楽天

楽天 (株)

●●● 賛助会員 (2 口)



(株) KDDI 研究所



NTT アドバンステクノロジー
(株)

Canon

キヤノン (株)



(株) 言語工学研究所



三協印刷 (株)

SANBI

三美印刷 (株)



鉄道情報システム (株)



東北電力 (株)



Victor・JVC

日本ビクター (株)



日本放送協会放送技術研究所

インテル (株) / キーウェアソリューションズ (株) / (株) デンソー / (株) メディアフラッツ

【A～Z】

(株) CIJ
CRIMSON INTERACTIVE
PVT. LTD.
(株) CSK システムズ
(株) FFC
(株) HBA
HOYA (株)
IT エンジニアリング(株)
JRC エンジニアリング(株)
(株) KDDI 研究所
MHI エアロスペースシステムズ(株)
NEC システムテクノロジー (株)
(株) NEC 情報システムズ
NEC ソフト(株)
NEC ソフトウェア東北(株)
NEC フィールディング(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
NTT コムウェア(株)
NTT ソフトウェア(株)
(株) NTT データ
(株) NTT データ・アイ
(株) NTT データ CCS
(株) NTT データ関西
(株) NTT データ九州
(株) NTT データ中国
(株) NTT データ東海
(株) NTT データ東北
(株) NTT ドコモ
NTT 横須賀研究開発センタ
(株) PFU
SBI ネットシステムズ(株)
TIS (株)
(株) UFJ 日立システムズ

【あ行】

アートシステム(株)
アイアンドエルソフトウェア(株)
(株) アイヴィス
(株) アイ・エス・ビー
アイシン精機(株)
(株) アイズファクトリー
(株) アイネス
(株) アドバンスト・メディア
(株) アルファシステムズ
池上通信機(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
岩崎通信機(株)
インダストリアルソフト(有)
(株) インタフェース
(株) インテック
(株) インテックシステム研究所
インテル(株)
インフォサイエンス(株)
(株) インフォシティ
(株) インプレスIT
(株) ヴァル研究所
(株) エクサ
(株) エス・エフ・シー
(株) エスケーエレクトロニクス

(株) エデュケーショナルネットワーク
(株) エヌジェーケー
エヌ・ディー・アール(株)
オークマ(株)
(株) 大塚商会
(株) オーム社
沖ソフトウェア(株)
沖通信システム(株)
沖電気工業(株)
(株) 小野仁
オムロン(株)
オムロンソフトウェア(株)

【か行】

(独) 科学技術振興機構
(財) 画像情報教育振興協会
(学) 片柳学園日本工学院専門学校
(学) 片柳学園日本工学院八王子
専門学校
関西電力(株)
関電システムソリューションズ(株)
キーウェアソリューションズ(株)
(財) 機械振興協会
キャノン(株)
キャノン(株) 技術資料センター
キャノンITソリューションズ(株)
キャノンソフトウェア(株)
(財) 九州先端科学技術研究所
九州電力(株)
共立出版(株)
グーグル(株)
グレースノート(株)
(株) 言語工学研究所
原電情報システム(株)
(株) コア 中四国カンパニー
(株) 構造計画研究所
(株) 高知電子計算センター
(株) 国際電気通信基礎技術研究所
国土館大学情報科学センター
(独) 国立印刷局研究所
国立国会図書館
コニカミノルタテクノロジーセン
ター (株)
(株) コミュニチュア

【さ行】

(株) サイエンスハウス
(株) サイエティア
サクサ(株)
サクシード(株)
三協印刷(株)
(株) 産業開発機構
三美印刷(株)
サン・マイクロシステムズ(株)
三洋電機(株)
三洋電機(株) デジタルシステム研
究所
(株) シーエーシー
(株) ジーダット
(有) ジェイ・サイバー

(株) ジェイアールシステム・エンジ
ニアリング
(株) ジェイアール東日本情報シス
テム
ジェイマジック(株)
システム・オートメーション(株)
システム開発(株)
(株) システムラボ
シャープ(株)
(株) ジャステック
(株) ジャストシステム
(株) ジャパンテクニカルソフトウェア
(財) 情報科学国際交流財団
(社) 情報サービス産業協会
(独) 情報通信研究機構
(独) 新エネルギー・産業技術総
合開発機構
(株) 新社会システム総合研究所
新日鉄ソリューションズ(株)
(株) 数理計画
(株) スクウェア
住友電気工業(株)
(株) セイノー情報サービス
セコム(株)
(株) 全農ビジネスサポート
(株) 創夢
ソニー (株)
ソニーグローバルソリューショ
ンズ(株)
(株) ソフトウェアコントロール
(財) ソフトウェア情報センターソフ
トウェア特許情報センター
ソラン(株)

【た行】

(株) 第一コンピュータリソース
大和ハウス工業(株)
拓殖大学
中国電力(株)
(株) 中電シーティーアイ
中部電力(株)
中部日本電気ソフトウェア(株)
通研電気工業(株)
ティーディーシーソフトウェアエン
지니어リング(株)
テービーテック(株)
テクノプレーン(株)
デジタルプロセス(株)
鉄道情報システム(株)
(財) 鉄道総合技術研究所
(株) テブコシステムズ
(株) 電産
(社) 電子情報技術産業協会
(株) デンソー
(株) デンソー IC 技術1部
(株) デンソーアイティーラボラトリ
(株) デンソークリエイト
(株) 電通国際情報サービス
(財) 電力中央研究所
東海ソフト(株)
東海旅客鉄道(株)

東京電力(株)
東光(株)
(株) 東芝
(株) 東芝 研究開発センター図書
館
東芝システムテクノロジー (株)
東芝情報システム(株)
東芝ソリューション(株)
東芝テック(株)
東芝プロセスソフトウェア(株)
東芝マイクロエレクトロニクス(株)
東芝メディカルシステムズ(株)
東邦ガス情報システム(株)
東北電力(株)
東北電力(株) 研究開発センター
(株) 東和システム
ドコモ・テクノロジー(株)
特許庁
凸版印刷(株)
トッパン・フォームズ(株)
(株) トヨタコミュニケーションシス
テム
トヨタ自動車(株)
(株) 豊田中央研究所

【な行】

名古屋学院大学
(株) ニコン
(株) ニコンシステム
ニッセイ情報テクノロジー (株)
日鉄日立システムエンジニアリング
(株)
日本アルゴリズム(株)
日本コムス(株)
日本事務器(株)
(株) 日本情報システムサービス
日本電気(株)
(株) 日本電気特許技術情報セン
ター
日本アイ・ビー・エム(株)
(社) 日本化学会
(株) 日本科学技術研修所
日本銀行
日本原子力研究開発機構
日本航空電子工業(株)
日本証券テクノロジー (株)
日本信号(株)
日本テクトロニクス(株)
日本電子計算(株)
日本電信電話(株)
(株) 日本トラフィックコンピュー
ターセンター
日本ビクター (株)
日本ヒューレット・パッカード(株)
ヒューレット・パッカード日本研
究所
(財) 日本品質保証機構
日本放送協会 放送技術研究所
日本無線(株)
日本ユニシス(株)
(株) 日本旅行

(株)ニューズウォッチ
(株)ニューメディア総研
(株)野村総合研究所

【は行】

パイオニア(株)技術開発本部
パイオニア(株)技術開発本部システム研究センター
萩原電気(株)
(株)博報堂DYホールディングス
パナソニック(株)
パナソニック(株) AVC ネットワークス社
パナソニック コミュニケーションズ(株)
パナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)
パナソニック MCE (株)
パナソニック 電工(株)
(株)ピーコン インフォメーションテクノロジー
(株)ピクセラ
日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株)
(株)日立アドバンストデジタル
(株)日立エイチ・ピー・エム
(株)日立国際電気
(株)日立システムアンドサービス
(株)日立システムアンドサービス 中部支社

(株)日立情報システムズ
(株)日立情報制御ソリューションズ
(株)日立製作所 情報・通信グループ
(株)日立製作所 東北支社
(株)日立製作所 システム開発研究所
(株)日立製作所 中央研究所
(株)日立製作所 中国支社
日立ソフトウェアエンジニアリング(株)
(株)日立中国ソリューションズ
(株)日立テクニカルコミュニケーションズ
(株)日立東日本ソリューションズ
(株)ファースト
(株)フォーカスシステムズ
(株)フジキカイ 名古屋工場
富士通(株)
(株)富士通エフサス
富士通関西中部ネットテック(株)
(株)富士通長野システムエンジニアリング
(株)富士通九州システムエンジニアリング
(株)富士通南九州システムエンジニアリング
(株)富士通四国システムズ
(株)富士通中国システムズ
(株)富士通中部システムズ

(株)富士通東北システムズ
(株)富士通北陸システムズ
(株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
富士通テレネットワークス(株)
富士通テン(株)
フジテック(株)
富士フィルム(株)
船井電機(株)
フューチャーアーキテクト(株)
ブラザー工業(株)
(株)ブリヂストン
(株)ブリッジ
古野電気(株)
プロソフトトレーニングジャパン(株)
北陸電力(株)
北陸日本電気ソフトウェア(株)
(株)堀場製作所

【ま行】

(株)マイクロアド
マイクロソフト(株)
マツダ(株)
三井情報(株)
三菱スペース・ソフトウェア(株)
(株)三菱総合研究所
三菱電機(株)
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)

三菱電機コントロールソフトウェア(株)
三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)
三菱プレジジョン(株)
武蔵野美術大学
(株)メイテツコム
(株)メディアフラッツ
森長電子(株)

【や行】

ヤフー(株)
ヤフー(株) Yahoo! JAPAN 研究所
ヤマトシステム開発(株)
ヤマハ(株)
ユニコテクノス(株)
横河電機(株)

【ら行】

楽天(株)
リードエグジビションジャパン(株)
(株)リコー
(株)リコー 中央研究所
(株)リンクレア
(株)ロックウェーブ

協力協定締結学会との正会員会費割引について

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率（正会員会費が割引対象）

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%
ASTI	(Association Francaise des Sciences et Technologies de l' Information)	10%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (<http://www.ipsj.or.jp/03somu/kanrenlink/kanrendantai/kanren/kaigaikanren.html>) をご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員の方は、協力協定締結学会正会員の会員証コピーを添付 (Fax 可) のうえ、下記照会先に申請してください。ただし、割引適用は1学会分といたします。

※これから入会を希望する方は、正会員の入会申込書 (https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-nyukai_sei.html) をご参照ください。

■照会先：会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375